

タイトル (活動概要)	42 ふわふわ言葉と チクチク言葉	アフローチ (関連する力)	「仲間づくり」⑬ ⑭		
タイミング (実施時期)	周囲から思いやりの言葉が聞こえるようになった頃	活動場所	教室	所要時間	15分
対象学年	幼・ 小低 ・ 小中 ・小高 中1・中2・中3・高	対象規模	学級	活動場面	帰りの会、 学級活動・道徳
活動のねらい	<背景>群れ合い体験の不足から、人間関係づくりが苦手な子どもが多い ・ 温かい言葉を進んで使おうとする ・自分たちが使っている言葉に関心をもち言葉が引き起こしている感情に気付く				
準備	・模造紙				
学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		資料等	
1 導入 ・友達の思いやりのない言葉で傷ついたことがないか思い出す		・担任に苦情があったことや人権的に気になる言葉等があることを伝える			
気持ちが温かくなったり辛くなったりした言葉を思い出し、自分の言葉遣いを考えよう					
2 主活動 ・言われると嬉しくなったり、気持ちが温かくなったりした言葉を発表する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">気持ちがふわっとなるのでふわふわ言葉</div> ・悲しくなったり、イライラしたり、心が傷ついた言葉を発表する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">トゲトゲがある言葉などでチクチク言葉</div> ・隣同士でふわふわ言葉とチクチク言葉を一つ一つ声に出して言い合う ・最後の言葉はふわふわ言葉を言い合って、お互いに握手する		・模造紙を半分に分け、ふわふわ言葉、チクチク言葉に分けてなるべくたくさん書く ・どんな言葉の時にどんな気持ちがしたかを後で言ってもらうことを伝える ・言葉によって受け止める気持ちが違うことを実感させたい ・感情的な言い合いにならないよう注意する		模造紙	
3 ふり返り ・ふわふわ言葉とチクチクことばを言ってみてどんな気持ちがしたか、言われたときの気持ちはおんなかを発表する ・これからどんな言葉を使っていきたいかを考える		・模造紙をしばらく掲示し、意識化を図る ・考えたことを短冊に書き机にはるのもよい			
配慮事項	・学級の信頼関係が形成されてないときに実施すると、感情的な言葉の応酬となる危険もあり、十分な配慮が必要 ・学級の状況に合わせて、帰りの会でよかったことや困ったこととして発表させたり、学級の問題として学級活動で取り上げ、学級の約束をつくったり、道徳として思いやりを考える機会として扱ったりすることも考えられる				

参考；岡田弘ほか「エンカウンターで学級が変わる 小学校編」（図書文化 1996年）